

安全センター

[発行]
 尼崎労働者安全衛生センター
 [連絡先]
 〒660-0802
 尼崎市長洲中通 1-7-6
 TEL・FAX 06-4950-6653

明日への伝言
 アスベストシロクからノンアスベスト社会へ

 1,890円(当センター割引あり)

クボタショック14年 集会は 今年も成功

尼崎安全センターは、六月はクボタショックの集会に全力を挙げています。
 この二二日も中小企業センターに約二六〇名が集まりました。今年も阪神医療生協を中心にひまわり医療生協、尼崎市職労や市水道労組、ヤンマー、東亜バルブ、日本板硝子等労組OB、関西労職研など安全センター関係では約三〇名の参加がありました。(患者と家族の会尼崎支部は約七〇名)
 今年はいつも準備段階から応援

私 は アスベストを
 吸っている
 安宅 功一

私は現在六九歳。西宮JR名塩に住んでいます。生まれは尼崎

してくれている日板共闘労組OBの安宅さんから自身のアスベスト体験を寄稿していただきました。

です。JR尼崎駅から北東一・八kmぐらいの所に位置する額田(ぬかだ)という所に居住し、園和小学校、小田北中学校、県立尼崎高校へと進みました。(奇しくもこの日の発言者、西方秀夫さんとは小田北、県尼で同じ学年です) 高校時代はJR尼崎駅横のガード下を通って通学していました。尼崎に住んでいた一七年間、アスベストを吸っていたことになりません。

多い県尼高卒の被害者

私がクボタ集会に参加するようになったのは、労働組合の関係で、尼崎労働者安全衛生センターに関わっていたからです。退職後もこの集会には参加しお手伝いもしています。

その後四四年間勤めていた日本板硝子を退職して六年になります。が、職場でもアスベストを吸っていたことがあります。ガラスを扱う職場は高温作業を伴い、アスベストは断熱材として欠かせないものでした。(今年集会で配布された『緩慢なる惨劇に…』No.8、一二頁に末吉さんが報告しています。)

の中で、アスベスト被害者の中に県尼卒業生が意外と多いのに驚くと同時に心を痛めています。私は退職後も会社負担で年一回のじん肺検診を受けており、異常はありませんが集会の度に気をつけるようにしています。

この尼崎集会では、参加者の数も多いのですが、近年活動の広がりを感じています。患者と家族の会の皆さんの地道な活動によるところが大きいと思います。アスベスト被害はその使用量の推移からみても、ますます増加していくことは間違いありません。

患者と家族の会の今後の活動に期待するとともに、安全センターのOBとしてできる限り協力していきたいと思っています。

救済金請求 1年で16人増

クボタ・ショック14年

被害者増に警鐘



健康被害の体験を語る西方秀夫さん(尼崎市)

尼崎市の大手機械メーカー・クボタの旧神崎工場周辺でアスベスト(石綿)による健康被害が発覚した「クボタ・ショック」から間もなく14年。患者団体などが22日に市内で集会を開

き、中皮腫や肺がんを発症して同社に救済金を請求した住民が355人に達した、と発表した。支援団体の尼崎労働者安全衛生センターによると、請求者はこの1年で16人増

十年の潜伏期間があることから、「被害者はこれからも増え続ける」と警鐘を鳴らしている。

JR尼崎駅近くにあったクボタの旧神崎工場では、1954年から95年にかけて石綿を使った水道管や建材が製造されていた。

2005年6月以降、工場労働者や周辺住民の間で中皮腫や肺がんが多発していることが発覚。工場直

接石綿を扱う人だけでなく住民にまで健康被害が広がっていたことが社会に衝撃を与えた。

クボタは工場から半径1

・5km圏内の居住歴などを要件に、患者や遺族へ2500万〜4600万円の救済金を払ってきたが、1・5km圏の外で中皮腫を発症する住民もいる。センターの飯田浩事務局長(79)は集会で「クボタは対象範囲を広げるべきだ」と訴えた。

会場では健康被害を受けた元住民も体験を語った。

1980年ごろまでクボタ工場の約100m北側で暮らしていた大阪市此花区の西方秀夫さん(68)は、2年前に突然せきが出始め中皮腫と診断された。「2005年にクボタ・ショック

のニュースを見て検査を受けた時は異常なかった。今頃になって……」と、病名を知った時の驚きを振り返った。胸膜の患部を手術で切り取ったが、今も患苦しさを覚えることが多く、再発を心配する日々が続いているという。

集計によると、救済金を請求した住民(元住民も含む)355人のうち、328人はすでに死亡。27人が現在も療養を続けている。石綿被害の相談は尼崎労働者安全衛生センター(06・4950・6653)へ。(宮武努)

石綿禍 伝える写真展

きょうまで 患者の姿など90点

尼崎

アスベスト(石綿)による健康被害の深刻さを訴える写真展が、尼崎市役所1階ロビー(同市東七松町1)で開かれている。企画した被害者支援団体「尼崎労働者安全衛生セ

2000年から石綿被害を記録している方



アスベスト被害や患者たちの闘いを伝える写真展
ニ崎市役所で

「センター」の飯田浩事務局長(72)は「石綿被害に関心を持つきっかけにしてほしい」と話している。21日まで。無

メラマンの今井明さん(66)川崎市が撮影した写真約90点を1枚のパネルにまとめた。国に損害賠償を求めて各地で提訴した患者や家族、支援者の姿を記録。尼崎市のクボタ旧神崎工場の周辺で粉じんを吸い込んだ住民にも中皮腫が多発していることが判明した05年の「クボタショック」。

【近藤諭】

二〇一九・六・二一 毎日新聞

なども紹介している。また、22日午後1時には「アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会」が同市昭和通2の尼崎市中小企業センターで開催される。市内で実施中の中皮腫調査の解説や、闘病中の患者の訴えなどがある。同日午前10時、正午には集会会場で「アスベスト相談会」も開く。いずれも無料。問い合わせは尼崎労働者安全衛生センター(06・4950・6653)。

毎年参加してくれている泉南の写真も出てきます。市役所へ建築関係などの手続きに来た人が、帰りによってくれます。

写真・DVDや資料、文献、アスベスト見本、慰霊の場所―やはり、アスベスト資料センターが必要ですか。どこかいいスペースはないでしょうか。(泉南では、石綿被害に警鐘を鳴らした梶本医院跡地に当時の遺留品、文書など展示。)



西方さんは手作りのカードを持参し、会場にも勇気を与えてくれました。



2019/06/19

説明する今井さん、彼の写真には被災者への愛情がこもっています。



2019/06/22

稲村市長は毎年参加し、被害者の訴えに耳を傾けておられます。



2019/06/22

最後の集会宣言まで、参加者の集中は途切れません。

尼崎に気になる会社が

尼崎にいて、なんとなく目に飛び込んでくる事業所というのがありません。たとえば「モノタロウ」。

七月六日、高槻の産廃倉庫で火災死亡事故があり、それで名前が出てきました。

この倉庫で、昨年台風で水につかった約三〇〇〇本のモノタロウ製スプレー管のガス抜き作業をしていたところ、抜けたガスに引火の疑いということです。死亡二人のうち一人はモノタロウの男性社員三六歳、その次男一三歳も重体

となつています。業務上過失致死の疑い内容をきちんと見ておく必要があります。

冠婚葬祭のベルコもよく知られています。ベルコの報告書によれば、全従業員七二八人のうち正社員はわずか三二人。(二〇一六年)

ベルコの代理店とそこの一年契約の労働者について、北海道労働委が、代理店は会社の一部門とみなしうるし、その従業員もベル

コの指揮命令下にあったとして、労働組合を結成した二人の労働者の雇用の打ち切りを認めず、復職を命じました。

実際はその会社の指揮命令下にあっても、業務委託契約などの形で、労働時間の規制や残業代支払など一切関知しないというやり方。あくどいですね。

他にも人事政策室にいたアシックスの社員が育児休業から復帰した後、いやがらせて物流子会社の梱包作業に回されたという育児・介護休業法違反の訴え。法律では、育児休業の取得を理由とした嫌がらせを禁じています。アシックスはいてる?

